

平成23年度

芸術文化振興基金 文化芸術振興費補助金 助成事業事例集



独立行政法人 日本芸術文化振興会

目次

芸術文化振興基金助成事業

現代舞台芸術創造普及活動

- 1 音楽 オーケストラ
オーケストラ・ニッポニカ
第19回演奏会、第20回演奏会
芥川也寸志メモリアル オーケストラ・ニッポニカ
- 2 舞踊 現代舞踊
薔薇の人
薔薇ノ人クラブ
- 3 演劇 現代演劇
太陽の塔
有限会社岡部企画

伝統芸能の公開活動

- 4 邦楽
奏心会 —2011— ～「今」を語る古典～
奏心会
- 5 落語
日本演芸若手研精会
日本演芸若手研精会
- 6 その他の伝統芸能（聲明）
声明の会・千年の聲 声明公演「千年の聲」
声明の会・千年の聲

美術の創造普及活動

- 7 「U-30 Under 30 Architects exhibition 2011」
30歳以下の若手建築家7組による建築の展示会
特定非営利活動法人アートアンドアーキテクトフェスタ

多分野共同等芸術創造活動

- 8 アンサンブル・ゾネ ダンス公演
「Place in the Moment 瞬の場所」
アンサンブル・ゾネ
- 9 雪アートプロジェクト
特定非営利活動法人越後妻有里山協働機構

国内映画祭等の活動

- 10 国内映画祭
第21回映画祭 TAMA CINEMA FORUM
TAMA 映画フォーラム実行委員会

地域文化施設公演・展示活動

- 11 文化会館公演活動
桜美林大学プルヌスホールプロデュース/
市民参加企画群読音楽劇『銀河鉄道の夜 2011』
学校法人桜美林学園
- 12 美術館等展示活動
出羽三山と山伏
—はるかなる神々の山をめざして—
千葉県立中央博物館

アマチュア等の文化団体活動

- 13 結成 10 周年記念
劇団ドリーム☆キッズミュージカル公演
〈登米祝祭劇場〉子どもミュージカル劇団「ドリーム☆キッズ」

歴史的集落・町並み、 文化的景観保存活用活動

- 14 博多百年町家へようこそ！プロジェクト
ハカタ・リバイバル・プラン

民俗文化財の保存活用活動

- 15 民俗芸能後継者育成事業・
横手市増田民俗芸能フェスティバル開催
増田地域センター運営協議会

伝統工芸技術・文化財保存 技術の保存伝承等活動

- 16 石川県の茅葺き技術継承にむけた公開講座
特定非営利活動法人石川県茅葺き文化研究会

文化芸術振興費補助金助成事業

トップレベルの舞台芸術創造事業

- 17 音楽 オーケストラ
広島交響楽団
平成 23 年度定期演奏会
公益社団法人広島交響楽協会
- 18 舞踊 バレエ
2011年スターダンサーズ・バレエ団4月公演
「シンデレラ」全2幕
公益財団法人スターダンサーズ・バレエ団
- 19 演劇 現代演劇
テアトル・エコー第141回公演
「風と共に来たる」
株式会社テアトル・エコー
- 20 伝統芸能 古典演劇
前進座創立八十周年記念
五月国立劇場公演
劇団前進座株式会社
- 21 大衆芸能 奇術
ベストマジシャンズフェスティバル
(東京公演)
公益社団法人日本奇術協会

映画製作への支援

- 22 劇映画 A
天地明察
株式会社角川書店
- 23 記録映画 A
アフガニスタン干ばつの大地に用水路を拓く
株式会社日本電波ニュース社
- 24 記録映画 B
よみがえりのレシピ
映画「よみがえりのレシピ」製作委員会
- 25 アニメーション映画短編 A
ハーバーテイル
有限会社イトゥーン

1 オーケストラ・ニッポニカ 第19回演奏会、第20回演奏会

芥川也寸志メモリアル オーケストラ・ニッポニカ

助成実績 3,000千円

活動概要

『芥川也寸志メモリアル オーケストラ・ニッポニカ』は、日本を代表する作曲家であり、かつその域にとどまらずに多様な音楽的、社会的活動を実践した芥川也寸志の薫陶を深く受けたメンバーが中心となって、その遺志を継ぐべく2002年に設立された。

設立後、従前8年間の定期演奏会において、歴史的に重要でありながら、初演以来演奏される機会がほとんどない1920年代から1950年代までの日本の管弦楽作品を発掘し、総譜や演奏用パート譜を復刻、校訂、製作し、再評価の機会を創出し、作品の普及にも努めている。これまで、約90作品を演奏し、録音を残す活動を継続しており、取り上げた作品は他団体で再演されたり、主要レーベルからCD化されたりしている。

2011年度に活動を継続するにあたり、従来のように邦人作品のみの演奏会だけでなく、欧米の作品と日本のこうした管弦楽作品とを組み合わせて、本来日本のオーケストラであればこそ可能なプログラミングを広く社会に提示し、活動の意義をより鮮明にしたいと考えた。

第19回演奏会では、米国で作曲を学んだ作曲家唯是震一もリハーサル及び演奏会に参加、唯是の孫の奥田雅楽之一が独奏者を務め唯是作品の真髄を示すことができた。併せて米国では評価の高い作曲家ドーソンの交響作品を日本初演した。

第20回演奏会では、指揮者田中義和、ソプラノ山田英津子を迎え、山田一雄交響作品展を開催した。指揮者として著名な山田一雄を、管弦楽作品の作曲家として評価する企画であった。

来場者の寄せたアンケートには、企画を評価し、音楽を聴く喜びを綴ったものが多く、活動の意義をより鮮明にすることになった。



▲第19回 演奏会



▲第20回 演奏会

助成を受けて

今回、作曲家年譜と詳細な作品解説を掲載したプログラム冊子を製作して、当日会場において無償配布を行った。助成によって、当該事業が実施できるばかりでなく、音楽界、日本の管弦楽の演奏活動に貢献しているものと確信している。

芥川也寸志メモリアル オーケストラ・ニッポニカ

〒142-0063 東京都品川区荏原7-4-2 加藤方

Tel:03-3784-1046 E-mail:tn-kato@kj8.so-net.ne.jp URL:<http://www.nipponica.jp/>

2 薔薇の人

薔薇ノ人クラブ

助成実績 900千円

活動概要

代表の黒沢美香は、1985年、2年間からの文化庁在外研修（ニューヨーク）より帰国後、主として小スペースを中心として異なるジャンルのアーティスト等と即興性をベースとしながらダンスを捉え直す試みの作品創作・上演を継続。99年、ソロとしては過激な長時間の作品上演：黒沢美香ソロダンス「薔薇の人」シリーズを開始。

今回の公演では、「薔薇の人」黒沢美香・高野尚美編として、2010年秋に創作初演した「南国からの書簡」及び新作「南国からの書簡 -旅立ち-」を上演した。この「南国からの書簡」は、「薔薇の人」シリーズ初の振付家・ダンサー上原尚美を迎えた共同創作作品であり、「二人だからこそできるソロダンス」、「二人だからできるソロダンスの行い方」をダンス（作品）の形として提示した。初演版に続く小道具担当：小林ともえの参加により、物語を進行しながら、ダンスとともに小道具や美術が創り出す時間の経過や空間が、作品の伏線として流れに変化を持たせ、新たに「二人で行うソロダンス」シリーズ作品を生み出すことができた。

今回のデュオ作品「南国からの書簡」を、ソロで行う＜ダンスの考察＞シリーズ「薔薇の人」の次なる展開への布石とし、＜ダンスの時間＞という場の意識提起を更に推し進めていきたい。そして、ダンスだからこそ生まれる・ダンスならではの「時間の深さ・強度が積み上がっていく課程」を観客と共に経験し、多様な観客層によるダンス・コミュニケーションの発信地としての一端を担っていきたい。



▲南国からの書簡 (Photo: 大洞博靖 / Hiroyasu Daido)



▲南国からの書簡 (Photo: 大洞博靖 / Hiroyasu Daido)

助成を受けて

この「薔薇の人」シリーズのようなダンスの可能性を探る実験的な取り組みは、活動を継続していく事にも意味があり、単発的（単年度）活動への助成支援であるとしても、創作活動を継続していく過程として大きな支援となっている。出演者・スタッフの充実や創作の場である稽古場確保、本作品に大きな役割を占める小道具・美術の製作、会場費等、事業のソフト面及びハード面の環境を整えることができた。

薔薇ノ人クラブ

〒164-0003 東京都中野区東中野 1-6-2 諏訪ビル 301 Dance in Deed! 内

Tel:03-3227-0279

E-mail:danceindeed@m3.dion.ne.jp

URL:<http://www.k5.dion.ne.jp/~kurosawa/>

3 太陽の塔

有限会社岡部企画

助成実績 2,100千円

活動概要

1970年、劇団「空間演技」を設立。1990年、劇団「空間演技」及び他の劇団で上演できない岡部作品の上演を目的として、企画制作会社「有限会社岡部企画」を設立。

「劇団制に囚われない斬新な演劇活動」、「地方から中央への文化の発信」、「ワークショップによる演劇人の育成」、「近代から現代までの戯曲を発掘し時代に即した解釈での上演」を目的として活動している。

今回の活動では、2012年に生誕100年記念の年を迎えた岡本太郎を取りあげた。

「人類の進歩と調和」に抗議し、瞬間瞬間に爆発するその生き方から、前衛絵画作家として、その奇抜な言動やユニークな存在のみで語られていた岡本太郎。

彼の生い立ちや両親との複雑な関係を描くことにより、岡本太郎の知られざる人間像を捉えることに主眼をおいたことで、人間岡本太郎とその作品をまったく新しい視点から見つめなおすこととなった。

また、1970年代、高度経済成長がもたらした、万国博覧会、日航機よど号乗っ取り事件、連合赤軍事件、三島由紀夫割腹事件など激しく揺れ動く時代を振り返り、その後のモーレツ時代に対する反省など日本の歴史の推移を描き、あの時代の日本を検証することにもなり、絶賛を受けた。



▲太陽の塔



▲画家 岡本太郎

助成を受けて

岡本太郎のアトリエの再現、「太陽の塔」の大型模型、太郎の絵画の実寸大複製、俳優による生エレキバンド。大胆な舞台美術や、細部にまでこだわった小道具、衣裳など、どれも忠実に再現できたのは、質の高いスタッフの協力が得られたからである。助成による支援が得られたことで作品完成にける全員のモチベーションが高まり、完成度の高い作品に集約されるという絶大な効果があった。

有限会社岡部企画

〒214-0031 神奈川県川崎市多摩区東生田 1-12-7

Tel:044-933-9754

E-mail:nana5years@yahoo.co.jp

URL:<http://www3.plala.or.jp/koudai/>

4 奏心会 —2011— ～「今」を語る古典～

奏心会

助成実績 400千円

活動概要

平成6年、「山田流箏曲奏心会」を結成。翌年より毎年演奏会を開催し10回を数えた。平成17年新メンバーにより「奏心会」と名称を変更し、古典曲の演奏技術に基づいた上で、現代を生きる伝統音楽のあり方を、多角的に追求しようと企画された会である。

多種の邦楽器との音の対話を通して、会名の“心を奏でる”演奏を目標とし、古典を基盤とした邦楽という音楽の新しい創造への構築を試みることを目的としている。

今回は“地”をテーマにして、伝統曲はもとより創作曲にも“地”を配して、それぞれの曲における“地”の音楽的あり方を演奏と解説とで追求するかたちで企画した。

1曲目では、“巢籠地”の由来となる「巢鶴鈴慕」、2曲目では“六段地”が用いられる山田流箏曲の「白の声」、3曲目は打楽器と義太夫三味線を使って日本の音楽のベースにある“地”を織り込んでの創作曲とした。4曲目では“さらし地”を展開させた「さらし幻想曲」、そして最終曲では1曲目で取りあげた“巢籠地”を用いた「根曳の松」を会員全員で演奏した。



▲根曳の松



▲斑鳩の地によせて

助成を受けて

当日の天候が悪く、また震災・原発事故の影響もあってか、お客様が少なかったことは大変残念であったが、そのような状況にも拘わらず今回初めての観客も多く新たな客層ができ、大変よかったと思っている。

助成公演であることで、当公演への信頼性が増し、大きな宣伝効果となったと感謝している。また、助成のおかげで、助演者を招き打合せの回数を重ねることが可能となり、良いプログラムとすることができたと考えている。

奏心会

〒114-0032 東京都北区中十条 3-5-6 亀山方

Tel:03-3909-8935 E-mail:kokorokanadete@yahoo.co.jp

5 日本演芸若手研精会

日本演芸若手研精会

助成実績 300千円

活動概要

設立者である稲葉守治は、自営業を営む傍ら、昭和54年に国立演芸場が開場したのを契機に、若手落語家を育成するための「日本演芸若手研精会」を設立し、その年の7月から国立演芸場で月例公演を開始した。平成18年には300回記念公演を催すに至った。

日頃、活動の場が少ない真打ちを目指す若手落語家（二ツ目）を構成員として、技芸向上を図る公演活動の場を定期的に設け、大衆芸能の振興、発展、普及及び人材育成に寄与することを目的としている。

現在、若手落語家は、公演活動の場及び寄席等における出演時間が短く、きちんと演目を演ずる機会がほとんどない状況である。古典落語の演目を完全に演じられる時間の確保と、舞台整備された会場での月例の公演を実施していくことこそが意義のあることである。

平成23年度は、その点に活動の重点を置き、公演活動計画を立て着実に実施したことにより、若手落語家の技芸向上に資することができた。

それを裏付けるように、会員の中核的存在であった春風亭一之輔は、平成23年9月に所属する社団法人落語協会から21人抜きの真打昇進が決定し、平成24年3月下旬から真打として高座に上がっている。

また、平成22年度NHK新人演芸大賞受賞（落語部門）、平成22年度文化庁芸術祭大衆芸能新人賞受賞という成果を得ている。



▲2011年5月13日 瀧川鯉橋(撮影者:日高仁)



▲2011年10月17日 春風亭一之輔(撮影者:日高仁)

助成を受けて

日本芸術文化振興基金の助成対象の活動として認められたことで、会員一同が一層の自覚を持ち研鑽に励むこととなり、公演内容の水準も高く評価されている。今後においても、この公演活動を高水準に保ち、人材育成をも積極的に推進し、日本の伝統芸能の振興に益々貢献していきたい。

日本演芸若手研精会

〒153-0063 東京都目黒区目黒 4-20-22-213 オフィスエムズ内

Tel:03-5721-5335 E-mail:sui@ta2.so-net.ne.jp URL:http://www.mixyose.jp

6 声明の会・千年の聲 声明公演「千年の聲」

声明の会・千年の聲

助成実績 2,300千円

活動概要

1997年、宗派を越えて結成された声明の会・千年の聲（旧名称：「声明四人の会」）は、千二百年の伝統を持つ日本の音楽の源流であり、貴重な財産である「声明」の普及と古典作品の継承、及び声明を通じた現代の日本の音楽の創造に努めることを目的に設立された。

古典作品の復活上演をするなど伝統の継承に尽くすとともに、優れた作曲家に委嘱し、現代の新作声明の創造に取り組んできた。伝統を受け継ぐ厳しい研鑽の中から、新たな声明の可能性を探る使命を担い、これまでにさまざまな新曲を生み出している。

今回は、声明に最も造詣が深い作曲家、鳥養潮が「千年の聲」の僧侶のために書き下ろした新作声明の代表作「存亡の秋」を上演した。

「存亡の秋」は、2002年の9.11同時多発テロの犠牲者に捧げるために作られた曲である。「3.11」後の日本で、逃れることのできない死に想いをはせ、ささやかな日常の幸福の中で、死と隣り合わせの生をどう生きるか、その智慧と生の覚醒を唱う生命の讃歌である。

僧侶たちの声明が、うねりのように押し寄せ、重なり合った声が、独特の響きを持って豊かに拡がる。時折錫杖の金属音が響くものの、楽器による伴奏は無く、厳かな雰囲気を一層深めていく。僧侶達の読経と、作曲者自身の英語によるネイティブ・アメリカンのメッセージが会場全体に響きわたる。観客は空間自体に包み込まれるような印象を持ったとの感想を寄せた。

伝統芸能の世界で新しい作品を創作しても、それが再演される機会は滅多にない。

しかし、作品が時代を経てもなお色あせることなく次世代に受け継がれていってこそ新たな伝統が刻まれていく。「存亡の秋」は10年ぶりの再演であったが、長老の指導者とともに演ずる若い演者にも受け継がれ、更に構成も吟味され力強い作品となった。



▲声明：撮影者 安養院



▲鳥養潮作曲「存亡の秋」：撮影者 青木司

助成を受けて

20回を重ね継続的に行ってこられたことは、出演者、スタッフの努力とともに、助成による支援があったことが精神的な大きな支えとなっている。最大限の自助努力は行っているものの、ニューヨークから作曲家を招き、稽古を重ね、これだけの大作を再演できたのは、助成がなければ不可能だったかもしれない。今後さらに、日本の伝統芸能である声明の普及、振興に益々貢献していきたい。

声明の会・千年の聲 事務局

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-9-9 コダマビル 5F 特定非営利活動法人魁文舎内
Tel:03-3275-0220 E-mail:info@kaibunsha.net URL:http://www.kaibunsha.net

7 「U-30 Under 30 Architects exhibition 2011」 30歳以下の若手建築家7組による建築の展示会

特定非営利活動法人アートアンドアーキテクトフェスタ

助成実績 2,000千円

活動概要

2010年に引き続き開催した、国内で始めたばかりの30歳以下の若手建築家にスポットをあてた展示会である。まだ経験や実績が少ない若手建築家に発表の機会を与えることで、次の時代を担う若い世代の育成を目的としている。

今回、9月～10月の32日間、ODPギャラリー（大阪デザイン振興プラザ）において、インスタレーション、建築模型、ドローイングによる建築プロジェクトの紹介を映像をまじえた展示で行った。

彼らは、社会が建築をつくることに否定的な風潮を帯びる中で、建築を学んだ世代である。このような社会環境で、あえて建築家としての道を選んだ彼らにとって、建築をつくることに、どのような意味や創造性を見出しているのか。

ドローイングの映像、体験型のインスタレーションなど、多岐にわたる独自の手法を用いて、この世代の建築家をもつ建築に対する思想や取り組みを表現した展示を行った。彼らの眼差しのあるこれからの建築を、様々な表現手法を用いて提示することで、若手建築家による空間表現の新しい手法から、これからの建築の可能性を見出すことができる。

通常、発表の機会の少ない若手建築家にとって、多くの人に彼らが設計する建築の持つ独自性や魅力を伝えることができる貴重な機会になった。また、シンポジウムにご登壇いただいた伊東豊雄氏をはじめ、活躍中の建築家からも高い評価を得ることができ、激励のメッセージとともに将来への期待が寄せられた。



▲会場の様子
(Satoshi Shigeta ©Nacasa&Partners.Inc.)



▲開催中の様子
(Satoshi Shigeta ©Nacasa&Partners.Inc.)

助成を受けて

基金の助成支援活動ということで、大阪市営地下鉄でのポスター掲示が行えたこと、ならびに展示会図録の出版等、広報宣伝や開催記録に関して、より一層の充実を図ることができた。基金の存在は、創造的な活動の支えとなっている。今回の成果を今後の活動に繋げていくためにも、その効力は大きいと考えている。

特定非営利活動法人アートアンドアーキテクトフェスタ

〒550-0015 大阪市西区南堀江2丁目9番14号4階

Tel:06-4390-7055 E-mail:info@aaf.ac URL:http://www.aaf.ac/

8 アンサンブル・ZONE ダンス公演 「Place in the Moment 瞬の場所」

アンサンブル・ZONE

助成実績 1,100千円

活動概要

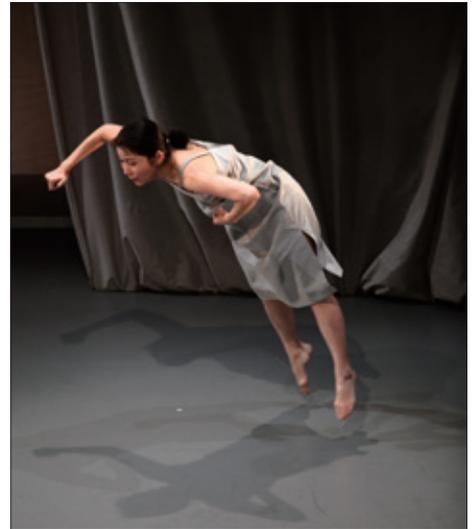
アンサンブル・ZONEは、1993年、ドイツ NRW 州立 Folkwang 芸術大学舞踊科在学中の岡登志子が同学生らとともに結成した。ニュートラルな状態に向かう身体と自己の感覚が融合して生まれる動きを空間言語と捉え、舞踊の原点とする。

助成を得たことにより、世界的に有名な主演ダンサーをゲストにお迎えすることができ、舞台の質を維持するのみでなく、さらなるレベルアップによる充実した舞台をお届けすることができた。芸術を通じて大震災を経験した人々の心を元気づける復興への一助となった。

今回は、音楽家井野信義、照明家岩村原太らとの共同創作である。振付家と音楽家、照明家、美術家が個々の世界を明示しあい、境界を越えた創作による新しい舞踊表現となった。特に振付においては、コンテンポラリーバレエ分野で活躍してきた中村恩恵氏と互いのバックグラウンドを越えた新たな舞踊表現を探求することができた。

舞踊によって生まれる独自の時空間のなかで「存在すること」を表現することを目指し、舞踊表現を通して身体性の所在を問い、パフォーマンス・アーツの創造を試みた。

現代社会における舞踊の意味や舞踊作品を広く社会に問いかけることができたことで、東京・神戸・名古屋の3都市において継続して上演する重要性を強く感じた。



▲「Place in the Moment」(写真家：阿波根 治)



▲「Place in the Moment」(写真家：阿波根 治)

助成を受けて

助成支援を受けることによって、国際的に活躍する音楽家井野信義氏、ダンサー中村恩恵氏、照明家岩村原太氏や美術スタッフを招聘することができたこと、さらにライブ演奏も含めた充実した共同製作が可能となった。

アンサンブル・ZONE

〒658-0014 兵庫県神戸市東灘区北青木 3-20-29-410

Tel:078-4111-2837

E-mail:info@ensemlesonne.com

URL:http://ensemlesonne.com/

9 雪アートプロジェクト

特定非営利活動法人越後妻有里山協働機構

助成実績 1,500千円

活動概要

平成12年、地域外サポーター「こへび隊」と地元ボランティアにより、第1回大地の芸術祭を開催した。平成20年、特定非営利活動法人越後妻有里山協働機構を設立。

日本有数の豪雪地で、周囲を山に囲まれた当地域は、過疎化、高齢化が著しく、度重なる地震の被害がさらに拍車をかけている。そんな状況から、地域に内在する潜在的な魅力、さまざまな価値を、アートを媒介として掘り起こし、世界に発信し、地域再生の道筋を築こうと、10年前に大地の芸術祭がスタートした。

越後妻有地域を、「大地の芸術祭」を中心とした文化・芸術の力と地域・世代・ジャンルを超えた人々の志と協働によって育て、地域のアイデンティティーの確立、雇用の創出、里山の保全を図り、住民が元気で誇りをもって暮らし、訪れる人々と夢や希望を分かち合える21世紀のモデル地域をつくることを目的とする。

今回、夏だけではなく四季を通じて越後妻有に訪れ、半年間雪に閉ざされる冬も体験したいという来訪者等からのリクエストを受け、冬場の開催とした。厳しい環境下で、古くから農業を営み暮らしてきた人々の力強さや、雪本来の美しさを体験してもらい、都市生活ではできない「場」の持つ力を感じ、現代生活のあり方を考えるアートプロジェクトを展開した。

松代城山の会場では、一万個の発光LED“光のたね”を、来場者が雪原に植えて花畑を作り、一夜限りの春を届けた。また、かまくらの中にLEDを埋め込みプラネタリウムのような空間を作り上げた。さらに、14名の新潟在住のアーティストが集結し、多様な雪のアートを見せる雪のギャラリーロードや、松代で使われていた大ぞりをリニューアルし、引っ張り合いを楽しむプロジェクトを行なった。アートによる雪イベントの可能性を提示することができ、雪の楽しみ、雪の魅力を感じ、訪れる人ばかりでなく豪雪地に暮らす住民にとっても、芸術に触れるハレの日となった。



▲高橋匡太「Gift for Frozen Village 2012」
Photo Osamu Nakamura



▲高橋匡太「Gift for Frozen Village 2012」
Photo Osamu Nakamura

助成を受けて

助成を受けたことによって、地域内外に幅広く広報することができ、これまで美術に縁の遠かった人々、若者や親子連れまで多く訪れ、共に雪の中のアートを楽しむ機会ができた。また、サポーター活動費が確保できたことで、首都圏のサポーターがアート作品の制作やイベント運営に取り組むことができ、アートを媒介とした交流を促進することができた。

特定非営利活動法人越後妻有里山協働機構

〒942-1526 新潟県十日町市松代 3743-1

Tel:025-597-3770

E-mail:info@tsumari-artfield.com

URL:http://www.echigo-tsumari.jp/

10 第21回映画祭 TAMA CINEMA FORUM

TAMA 映画フォーラム実行委員会

助成実績 2,300千円

活動概要

平成3年、多摩市制20周年記念事業として多摩市公民館主催の(仮称)国際友好フォーラムとしてスタート。その後「TAMA CINEMA FORUM = TAMA 映画フォーラム実行委員会」とした。

転入者の多い多摩市の市民間のネットワーク・コミュニティづくりと、日本映画の活性化と市民による「映画・映像」を通じたTAMAにふさわしい文化の町づくりを大きな狙いとして事業展開を行っている。

「作り手と観客との対話の場の設定」を行った会場では、延べ50名を越えるゲストや、Skype中継での遠方から参加の河瀬直美監督も加わり、観客を交えてトークに華が咲いた。

「才能ある若手作家の発掘」を目指し第12回目を迎えたTAMA NEW WAVEは、118作品の中・長編の応募があり、若手作家の登竜門として定着してきた。

「明日への元気を与えてくれる・夢を見させてくれる活力溢れるくTAMA 映画賞」の表彰では、3回目の今回はもっとも多彩なゲストが登壇し、映画祭全体を盛り上げ、映画・映像を通じた町づくりに貢献できた。

この年に公開された作品を中心に、市内4会場においてプログラムごとに異なる企画テーマを定め、プログラム別通し券にて、作品本数95作品の上映を行った。目標としていた集客数には届かなかったが、延べ10,142人の入場者があった。1日2部制が定着し、様々な映画を4会場で楽しんでもらえるようになった。



▲映画とハンドベルクワイアによる演奏



▲3.11と向き合う監督たち(左からスタッフ、富永昌敬監督、山崎都世子監督、今泉力也監督)

助成を受けて

この映画祭でしか見ることのできない付加価値をつけた企画であるが、助成を受けることで、21回という実績を築きあげることができた。また、広範囲に周知が行えたことで、市内のみでなく、市外からの来場者も多くなり、集客率が高くなってきている。

映像を通じた文化の町づくり活動として、市民からの継続期待が寄せられている。

TAMA 映画フォーラム実行委員会

〒206-0025 東京都多摩市永山1-5 多摩市立永山公民館内

Tel:080-5450-7204 E-mail:mikami.kayoko@gmail.com

URL:<http://www.tamaeiga.org/2012/>

11 桜美林大学プルナスホールプロデュース／ 市民参加企画群読音楽劇『銀河鉄道の夜 2011』

学校法人桜美林学園

助成実績 600千円

活動概要

学校法人桜美林学園は、1921年に開学した財団法人「崇貞学園」を前身として1946年5月に東京都町田市に設立された。国籍を問わず国際的人材として通用する学生の教育を建学の理念としている。

2007年8月、パフォーミングアーツ・インスティテュートが企画する初の市民参加企画、群読音楽劇『銀河鉄道の夜』を上演し、以後毎年8月に上演を行っている。

5年目を迎えた今年は、東日本大震災の鎮魂の意も込め、水のイメージや東北弁を使った『銀河鉄道の夜』となった。

幅広い世代の市民、演劇・ダンスを学んでいる学生、第一線で活躍するアーティストの普段あまり接点のない三者が、共に創りあげる舞台は、ボディパーカッション、ピアノとバイオリン、パーカッションによる生演奏がコラボレーションした斬新なスタイルが特徴である。

オーディションの応募者は200名を超え、来場者数は全ステージで922名を記録した。年々この企画が地域に根づいてきていることを企画側も実感している。

稽古・本番を10日間で行い、市民も参加しやすい短期集中の舞台創作となったこと、ホールの立地する相模原市には小惑星「はやぶさ」で話題になった宇宙航空研究開発機構 JAXA があり、「銀河をかけるまち、ふちのべ」の町づくりとも相まって文化面からの地域発展にも貢献できたと自負している。充実した劇場施設や優れた人材・知財を持ち、“地域に開かれた劇場”を目指す桜美林大学プルナスホールならではのレパトリー・プログラムとして、優れた市民参加企画のモデルケースとなることを目指している。

今回は、NHK 横浜放送局の取材、番組での採用の効果もあり、公演後の反響も大きく町田市、相模原市外の広範囲に企画や当ホールを知って頂いたという大きな成果もあった。



▲銀河鉄道の夜①（撮影者：福井理文）



▲銀河鉄道の夜②（撮影者：福井理文）

助成を受けて

助成により、舞台装置、照明、音響、演出と様々な面で表現の幅を広げることができたが、なにより、企画、作品自体の信頼性が高まったことが最大の効果であり、地域及び市営施設関係者、学校関係者といった今までにあまり参加がなかった層にも足を運んでいただけた。

学校法人桜美林学園

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758

Tel:042-704-7133

E-mail:prunus@obirin.ac.jp

URL:http://www8.obirin.ac.jp/opai/

12 出羽三山と山伏 —はるかなる神々の山をめざして—

千葉県立中央博物館

助成実績 1,600 千円

活動概要

平成元年設置。平成 20 年に開館 20 周年を迎えた。

自然誌及び人文からなる総合博物館で、自然と歴史に関わる資料・情報を収集・蓄積するとともに、基礎的・国際的な視野に立って研究を行ってきた。常設展では、房総の自然と歴史に関わる多岐にわたる展示を、企画展では自然誌・生態環境・歴史の各分野において、オリジナルでトピック性の高いテーマや、研究員の専門性に根ざした展示を行っている。

今回は出羽三山信仰と、それをとりまく山伏の活動を中心にした展覧会である。

出羽三山の信仰とは、現在の山形県庄内地域の出羽三山、羽黒山、月山、湯殿山、を中心とする修験道で、出羽修験と呼ばれ、現在でも修験の山として健在である。房総（千葉県）では近世から現在に至るまで、出羽三山の信仰がことのほか盛んである。

「出羽三山の宇宙」と題した記念講演会や、「出羽三山と房総をつなぐもの」の映像シンポジウム、「行者の装束を着てみよう」「螺貝（ほらがい）を吹いてみよう」の体験イベントなど、多角的視点からのアプローチを行った。

展示資料は修験の山「出羽三山」に関わる仏像や錦絵など実物 85 点、写真・地図など 33 点にも及んだ。展示品の解説や房総と出羽三山信仰、羽黒修験（出羽三山の修験）の紹介は、房総の出羽三山の信者や、首都圏在住の羽黒山伏の方の協力で実現した。

この展示は、県内各地に残る出羽三山碑について、千葉県に新たに移住してきた人々の理解を深める一助になった。

さらに、高齢化が進んでいる房総出羽三山講では、この活動がきっかけとなり新たな活動に取り込むところも出てきた。

また、「山伏」のキーワードに、興味を持った若者も多く訪れてくれた。



▲シンポジウム「房総と出羽三山をむすぶもの」



▲「房総の梵天大集合」の展示風景
房総の出羽三山の信者や、首都圏在住の羽黒山伏の方が解説をしてくださっている。

助成を受けて

助成を受けたことで、多くの展示作品を借りることができ、さらに対象活動のシンポジウムを企画することもでき、企画展自体の内容の充実を図ることができた。

とりわけ本助成金が活用された記録映画の上映や、シンポジウム・講演会においては、当館の人文系の企画展としては、かつてないほどの参加者数で、定員 200 名のところ 1 割以上の増となる 230 名を記録した。

千葉県立中央博物館

〒260-8682 千葉県千葉市中央区青葉町 955-2

Tel:043-265-3111 URL:<http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/>

13 結成 10 周年記念 劇団ドリーム☆キッズミュージカル公演

＜登米祝祭劇場＞子どもミュージカル劇団「ドリーム☆キッズ」

助成実績 700千円

活動概要

平成14年9月、公益財団法人登米文化振興財団主催ミュージカルワークショップ「祝祭子ども隊「風の声がきこえる」」を開催。同年11月子どもミュージカル劇団を結成。以来プロの指導の下、年間を通して稽古を続け、年に一度公演を行っている。

団員は登米市内の小中高生で、卒業生も指導助手として参加しており、運営や広報活動、公演時の大・小の舞台道具や衣装の製作など、ほとんどの役割を保護者や地域のボランティアが担っている。

今回は、結成10周年を記念した上演活動となった。

演目は「星に願いを～森の中のメルヘン～」で、中学生の主人公が、ジャック、シンデレラ、赤ずきんなどたくさんの童話の主人公のいる不思議な森に迷い込んでしまう。その森を抜けだす過程で、人を信じること、勇気を出すこと、思いやることの大切さを知っていくオリジナルのミュージカルである。

東日本大震災で公演会場の登米祝祭劇場が大きく壊れ、学校も通常授業が行えないような状態となり公演もあやぶまれたが、団員の中から「皆さまへの恩返しの気持ちを込めて上演しよう」との声が高まり、保護者やボランティアの協力の下、上演に至った。

団員それぞれが、劇団での自分の役割を見つけ、劇団のために何が必要かを把握した行動ができるようになり、仲間とともに一つのことを創り上げるうえで、団結力が生まれ、思いやりの気持ちが育まれていった。

仲間がいることによるのみ生み出すことが可能なドリーム☆キッズでの実体験は、団員自身のみでなく、登米市の「宝」となっている。将来は地域文化を担う人材となり、地域が発展する力となると確信している。

2日間で1,217人の来場者を集め、登米市で避難生活を送っている方々も大勢来場された。



▲星に願いを その1



▲星に願いを その2

助成を受けて

助成を得られたことで、企画への信頼、賛同が得られ、ドリーム☆キッズを、より広くPRすることができた。そして広範な周知ができたことで、東日本大震災の影響で入場料の大幅減額が予想されていたにも拘らず、予定以上の成果を得ることができた。

登米祝祭劇場子どもミュージカル劇団「ドリーム☆キッズ」

〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字光ヶ丘30番地

Tel:0220-22-0111 E-mail:info2@tome-syukusai.or.jp URL:<http://www.tome-syukusai.or.jp/dreamkids>

14 博多百年町家へようこそ！プロジェクト

ハカタ・リバイバル・プラン

助成実績 900千円

活動概要

博多商人の伝統的な住居である町家づくりの築百年以上の家を保存し、その歴史的建築学的民俗学的意義を広く一般に周知させるべく、平成18年に、旧博多部住民によりハカタ・リバイバル・プランを設立。

平成20年、福岡アクロスでパネル展示がNHKテレビにて放送され、注目を集めた。平成21年電柱歴史案内看板が新聞、テレビ各社で放送され注目を集め、全日本広告連盟の地域貢献広告賞「鈴木三郎助大賞・特別賞」を受賞。

博多商人の伝統的な住居である町家づくりの築百年以上のこの家を、地元民の博多の歴史の学びの場として保存活用し、残存する近隣の博多町家の前向きな保存活用を促し、点から面としての博多町家ネットワーク作りに取り組んでいる。

町家の公開、小中学生の総合学習のフィールドワーク見学先としての受け入れ、大学・研究機関の研究目的に対して研究成果の共有を条件とする受入、語り部会の開催、出前事業開催、電柱歴史案内の設置などを行い、随時その成果をホームページで公開している。

今回の活動は、ふくおか地域づくり活動賞を受賞し、さらに、電柱を利用して、歴史案内板を設置していることが、町の景観に好影響を与えていると評価され、福岡県景観大会で知事賞をも獲得した。

さらに、国指定有形文化財の高橋邸に公益財団法人集団力学研究所のオフィスを誘致することに成功し、保存と活用に目途がついた。

また、語り部会から始まった地元出身の新演劇の祖・川上音二郎の講和会で日英米4大学の研究者の成果発表が行われ、学会で世界的評判になり、生誕150年を迎えて、国際フォーラムを博多で開催しようとの動きにまで広がっている。



▲語り部会：毎月第一木曜開催



▲電柱歴史案内（新劇の祖・川上音二郎墓所）

助成を受けて

助成事業ということで、博多百年町家での語り部会や町家ギャラリー等のイベントの開催告知が、今までよりも広く浸透し、参加者が大幅に増え、充実した活動になった。また、歴史的建造物だけではなく、街の景観を含めた保存活用を、今後も継続的に実施し、地域経済の活性化に寄与していきたい。

ハカタ・リバイバル・プラン

〒812-0033 福岡県福岡市博多区大博町 4-32

Tel:092-281-4008

E-mail:hakata8museum@me.com

URL:<http://www.hakata8museum.com>

15 民俗芸能後継者育成事業・横手市増田民俗芸能フェスティバル開催

増田地域センター運営協議会

助成実績 300千円

活動概要

平成14年に、増田地域の居住者で、自治意識の高揚と地域住民の連帯意識の向上を図ることを目的に発足した。平成15年には、後継者不足の伝統芸能団体を支援するため、民俗芸能教室を開催したのをはじめ、子ども民俗芸能体験教室、八木番楽子ども教室等々を開催し、その伝承保護に努めてきた。

さらに、その教室での練習成果の発表の場所として、平成15年11月に第1回増田町民俗芸能フェスティバルの開催に踏み切り、以後毎年民俗芸能教室とともに民俗芸能フェスティバルを開催している。

このような継続した取り組みにより、認知度も高まり、民俗芸能保存・伝承の必要性を地域一体で感じる雰囲気浸透してきて、着実に地域の認知度が高まってきており、秋田県内では、県主催大会に次ぐ規模の民俗芸能の公開事業となった。

今回は、7団体の参加となり、出演者は100人にもものぼり、入場者は350名を超えた。当日のアンケートから、市外からの観光客が増加していることも判明した。

また、岩手県から招いた金津流鶴羽衣鹿踊の特別出演も含め、民俗芸能の素晴らしさを一般市民に伝える絶好の機会となった。



▲八木番楽



▲角館おやま囃子

助成を受けて

このような活動の公開は、地方の民俗芸能の伝承保護活動や人材育成等への理解と関心を高める重要な機会となる。助成により、多くのポスターを製作し、より広いエリアに掲示し、周知することができた。その結果、入場者が350名を超え、県外からの来場者が大幅に増加した。

助成の支援は、参加者たちにも、この活動が、継続して取り組んでいくべき重要な活動であることをさらに強く認識させた。

増田地域センター運営協議会

〒019-0701 秋田県横手市増田町増田字新町 285

 Tel:0182-45-5556 URL <http://www6.ocn.ne.jp/~masudatc/>

16 石川県の茅葺き技術継承にむけた公開講座

特定非営利活動法人石川県茅葺き文化研究会

助成実績 1,000千円

活動概要

平成17年、石川県における茅葺き文化の保存継承活動を行うべく、特定非営利活動法人を設立。

茅葺き技術の学習と体験を通して、茅葺き民家への理解と関心を高め、後継者の必要性を広く県内外の若者に呼び掛ける活動等を実施。現存する茅葺き民家や、文化財指定の茅葺き建造物の保存・修復への一助とし、文化的景観の保全活動を行っている。

第1回を6月25日に、金沢湯涌江戸村の茅葺き農家旧野本家で開催。京都美山の茅葺き師塩沢実氏からの活動報告に続き、(独)森林総合研究所関西支局主任研究員の奥敬一氏から、笹葺き屋根調査と景観保全の講義。そして、金沢工業大学教授中森氏の司会で行われたフォーラムでは、(社)日本茅葺き文化協会の上野理事による茅材断熱の取り組み報告、早稲田大学生の茅不燃化研究報告など、新しい茅文化の切り口が示された。

第2回の7月30日は、輪島市三井町の旧福島邸において、輪島市の建築家高木氏の奥能登の現状報告、山浦氏の三井の茅葺き住まいの知恵。続いてのフォーラムでは、滋賀県立大学、早稲田大学などの活動報告、文化財としての茅葺きと茅刈り活動などについて話し合った。

翌31日、美山の塩沢氏、飛騨の杉山氏の茅葺き指導の下、滋賀県立・早稲田・金沢・金沢工業の各大学、石川高専生、一般市民などの参加者により、旧福島邸の軒部分を補修体験。地元の茅葺き師も手伝って、前屋根で差し茅による実習を行い、輪島の技術を紹介した。

この活動は、NHKテレビのニュースでも大きく報道され、県内に周知された。また全国から茅葺きに関心のある大学生が集まり、交流が生まれ、大学生によるネットワークづくりが図られ、茅文化を通じた茅資材保存保全と茅葺き技術継承の大切さが、地元民にも認識された。



▲差し茅による実習



▲フォーラム

助成を受けて

公開講座が助成事業になったことで、活動の信頼性が高まり、国内のみならず海外からの参加もあった。そのことがさらに、活動を行っている我々自身に、能登の世界農業遺産認定を背景とする茅葺き民家が国際的にも、観光に寄与できるものであることを、再認識させた。

特定非営利活動法人 石川県茅葺き文化研究会

〒920-0861 石川県金沢市三社町 1-16

Tel:090-8967-8022 E-mail:kayabunken@m2.spacelan.ne.jp

URL:<http://www2.spacelan.ne.jp/~kayabunken/>

17 広島交響楽団 平成23年度定期演奏会

公益社団法人広島交響楽協会

助成実績 30,100千円

活動概要

昭和38年10月「広島市民交響楽団」として発足し、現在、交響管弦楽等の音楽活動を通じて、県民の平和と文化の発展向上に寄与することを目的に、活動している。

今回は、広島県の国際平和文化都市「広島市」に本拠を置く、中・四国地方唯一の常設プロオーケストラとして、トップレベルの芸術性、音楽性を追求し、その真価を問うため、指揮者、独奏者、プログラムを厳選し、広島での初演曲もプログラミングすることで、広響の独自カラーを打ち出し、オーケストラの音楽性、技術力を高めるための創造活動とした。

震災の影響により、予定されていたスウェーデンからの音楽家達の来日を取り止めとなり、急遽、指揮者や曲目の変更があったものの、たいへん好評で意義深いコンサートとなった。

また、個性あふれる指揮者の下、真っ正面から取り組む演奏を行い、演奏の機会が少ないヴォーン・ウィリアムズの「南極交響曲」やボロディンの交響曲第2番を純度の高い演奏で広島の聴衆に聴かせることができた。

ソリストとの共演においても、金子三勇士ら若手からイェルク・デームスといった巨匠まで幅広いニーズに応えるラインナップで行われ、多くの聴衆を魅了した。



▲第308回定期演奏会「運命」演奏風景



▲平和のタバココンサート デュリュフレ・レクイエム
(平和祈念式典列席の各国大使も鑑賞されました。)

助成を受けて

助成を受けることで、音楽監督秋山和慶をはじめ、小林研一郎、広上淳一、外山雄三、沼尻竜典ら日本のトップレベルの指揮者をそろえることができ、名曲に正面から取り組むことが可能となった。それは、楽団のレベルアップだけでなく、意識面の向上に多大な効果をもたらし、同時に聴衆の拡大を図ることに貢献した。

公益社団法人広島交響楽協会

〒730-0842 広島県広島市中区舟入中町9-12 舟入信愛ビル3F

Tel:082-532-3080 E-mail:info@hirokyo.or.jp URL:http://www.hirokyo.or.jp

18 2011年スターダンサーズ・バレエ団 4月公演 「シンデレラ」全2幕

公益財団法人スターダンサーズ・バレエ団

助成実績 8,400千円

活動概要

太刀川瑠璃子を代表として昭和40年に設立以来、創作活動が続ける一方、海外で上演されている近代バレエの名作を日本に紹介し、バレエが、言葉の障壁を知らぬ楽しい芸術として、人々に受け入れられることを念頭に、常に日本バレエ界の発展向上を目指し歩み続けてきた。

本公演の「シンデレラ」は、誰もが知っている夢あふれる物語である。鈴木稔演出・振付の同作品は、家族愛や人を思いやる心を丁寧に描き出した全幕バレエ公演で、人間同士のコミュニケーションが希薄と言われる今日、特に青少年や子どもたちの心に響く舞台をお届けしたいという願いを込めた作品である。同様の願いを持つ吉田都氏の賛同により主演ゲストに迎え、華やかで上質なステージを行うことができた。

東日本大震災の影響により興行自粛の流れもあったが、厳しい状況に直面した時だからこそ、夢のような美しい舞台にふれることで傷ついた心を励ましたいとの思いから、安全を第一に心がけて公演を行った。

夢のような美しい舞台に触れたことで心が救われたという、多くのお客様の言葉を耳にすることができ、関係者一同も芸術の底力を実感し、芸術活動の価値を高めるといった役割を全うすることができたと確信している。



▲「シンデレラ」全2幕 ©A.I.Co.,Ltd.



▲「シンデレラ」全2幕 ©A.I.Co.,Ltd.

助成を受けて

トップレベルの舞台芸術創造事業にふさわしい世界的に有名な主演ダンサーをゲストにお迎えすることができ、舞台の質を維持するのみでなく、団員一同、高い技術を目指し挑戦し続けたことで、より充実した舞台をお届けすることができた。また、文化庁等からの力強い後押しを受け、芸術を通じて大震災を経験した人々の心を元気づける復興への一助となった。

公益財団法人スターダンサーズ・バレエ団 (平成24年4月 公益財団法人化)

〒107-0062 東京都港区南青山 2-22-4

Tel:03-3401-2293

E-mail:info-sd@sdballet.com

URL:<http://www.sdballet.com/>

19 テアトル・エコー第141回公演 「風と共に来たる」

株式会社テアトル・エコー

助成実績 5,700千円

活動概要

昭和31年、その5年前から活動していたテアトル・エコーを再建し、劇団活動を拡充した。

創立以来、古今東西を問わず広く現代喜劇を開拓し続けているテアトル・エコーが、今回は、世界的に有名な映画「風と共に去りぬ」の舞台裏ものとして、「風と共に来たる」原題（“MOONLIGHT & MAGNOLIAS”）を上演した。

映画プロデューサーが二人の協力者を巻き込み、名作映画に導く脚本を仕上げるまでの実話を、喜劇の枠組みを存分に生かしながら、芸術家たちの立場の違いをエネルギーギッシュに描いた演出は、初演時、観客に大きな感動をもたらしたものである。

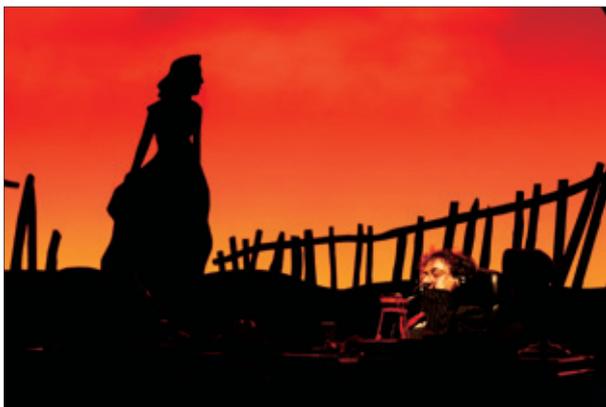
この作品を初演より更にクオリティを高めた上演に作りあげ、再演した。

観客は、なかなか明るさの見えない不安な現代において、この作品の一番の見どころである前向きに生きるメッセージと、それを熱演する俳優の情熱に触れ、大いに笑い、熱い拍手を惜しみなく届けてくれた。

更に、多くの観客からもう一度観たいと強く再演の希望が寄せられた。



▲風と共に来たる 場面



▲風と共に来たる 場面

助成を受けて

助成を受けたことにより、稽古を充実させて、作品理解を深めることができた。さらに、衣裳や小道具の充実など、スタッフワーク全般の質の向上につながり、再演作品の成功例となった。

株式会社テアトル・エコー

〒150-0011 東京都渋谷区東 3-18-3

Tel : 03-5466-3311 E-mail: info@t-echo.co.jp

URL: <http://www.t-echo.co.jp/>

20 前進座創立八十周年記念 五月国立劇場公演

劇団前進座株式会社

助成実績 11,300千円

活動概要

昭和6年、河原崎長十郎、中村翫右衛門、河原崎国太郎ら若い歌舞伎俳優によって設立。平成23年に創立80周年を迎えた。

今回の活動は、創立80周年記念公演の皮切りとなる公演で、三本の演目を揃えた。眼目は「秋葉権現廻船漕」となる。

この作品は、鶴屋南北より百年も前になる宝暦12年(1762)大阪三橋大五郎座の新作狂言として竹田治蔵が書き下ろし、実悪の名人・初代中村歌右衛門が、日本駄右衛門と月本祐明の二役を早変わりで見せて大当たりを取ったとの記録がある。

その後、幕末まで上演されてきたが、何故か明治になってからは上演されることはなかったが、昭和9年創立間もない前進座が、当時の歌舞伎界が置き忘れてしまっていた「古典時代物」の再検証を意図し、渥美清太郎の改訂演出で復活上演した。

その後上演されておらず、今回は、座の当代が、台本と上演パンフのみを手掛かりとしてトップレベルの創造活動事業にふさわしい演目にするべく挑戦した。

「唐茄子屋」は、座付き作者である平田兼三(故)が、落語を元に創った世話物で、座の当たり狂言の一本となっている。主人公・徳三郎を、今年7代目を襲名した嵐芳三郎が、初役で先代たちの芸を受け継ぎ、間に前進座創立八十周年記念の「口上」も入れ観客からの温かい喝さいを受けた。



▲秋葉権現廻船漕



▲唐茄子屋

助成を受けて

東日本大震災の影響があったにも拘らず、予定を大きく上回る入場者数となった。これは、助成を受けたことで、より周知を図ることができたものだと思う。

さらに、衣裳やかつらで、オリジナルなものを探り入れたことでクオリティの高い作品に仕上がりに、多くの人にトップレベルの上質の伝統芸能を披露できた。

劇団前進座株式会社

〒180-8570 東京都武蔵野市吉祥寺南町 3-13-2

Tel:0422-49-0770(代)

E-mail:info@zenshinza.com

URL:http://www.zenshinza.com

21 ベストマジシャンズフェスティバル (東京公演)

公益社団法人日本奇術協会

助成実績 1,500千円

活動概要

昭和11年に、職業奇術師の親睦と団結によって集まって以来、現在、第10代会長渚晴彦の下、会員一同一丸となり、技術や芸術性の向上、奇術の普及、振興並びに奇術界全般の地位向上や我が国の文化の発展に寄与することを目的として日々活動しており、当協会活動の一環としてベストマジシャンズフェスティバルを実施している。

日頃の技芸の研鑽によって、高い評価を受け選出されたマジシャンによるフェスティバル。

定例公演に比べてリハーサル時間を多く設定し、さらに本番での演技時間を指定しない、創意を取り入れた音響・照明・舞台操作を可能にしているなど、最高の技芸を披露できる環境を作っているため、マジシャンであれば一度は踏みたい舞台と言われている。

今回の公演では、選ばれたトップマジシャンが、それぞれ熟練の芸でお客様に感動を与える演技を披露した。

また、マジック界に旋風を巻き起こしている、話題の女性アイドルマジシヤングループ”プリマベラ”の繰り広げるスピーディーで華麗なマジックの数々は、観客からも大歓迎された。入場者の中には、マジックを知らない一般のお客様をはじめ、技術の向上を目指す若いマジシャンも多く、新たな奇術ファンの獲得や奇術の振興、向上に寄与することができた。



▲ベストマジシャン藤本明義



▲ベストマジシャン北見マキ

助成を受けて

トップレベルの舞台芸術創造事業として助成を受け、また、一層観客の期待に応えるためにも、熟練した奇術家であろうともその場にとどまることなく精進し続けること、協会はその環境を作り出すことの重要性を再確認した。

公益社団法人日本奇術協会

〒169-0073 東京都新宿区百人町1-20-3-402

Tel:03-3361-5221 URL:<http://www.jpma.net/>

22 天地明察

株式会社角川書店

助成実績 20,000 千円

活動概要

角川書店の出版のジャンルは広がり続け、書籍、雑誌だけでなく、映画、DVD、ネット、モバイル、ゲームなど様々な媒体でコンテンツを創り出してきたが、物作りの基本理念は、創業者である国文学者角川源義が角川文庫の巻末に掲げた「創刊に際して」が記された時から一貫して変わらない。

それは、読者の知的好奇心に応え独創的なコンテンツを創り出すこと。多くのファンに支えられる作品を生み出すことである。

今回の作品『天地明察』は、渋川春海が、それまで誰も成し得なかった日本独自の暦を作ることに邁進する姿を描いている。彼の挫折と屈辱の応酬のような「天を掴む挑戦」にかけた生涯は、見るものに勇気を与え感動を呼ぶ作品となったと確信している。

日米アカデミー賞受賞以来の作品として期待のかかる滝田監督の下に集結した日本映画人の底力を、今後、国内のみならず海外に向けても、日本文化の真髄として発信すべく良質な作品として高めていく所存である。

氷河期といわれる映画界の状況下、万人が共感できる内容、クオリティを兼ね備えた作品を送り出せたことを誇りに感じている。また、激変するフィルム撮影を万全の体勢で取り組めたことは、非常に意義のあるものであった。



▲天地明察 撮影風景



▲天地明察 撮影風景

助成を受けて

助成を受けたことが、作品のステイタス向上による宣伝展開の強力な後押しになったのはもちろんのこと、具体的にも、納得できる製作時間を確保でき、CG製作をはじめ、音楽・美術など充実した作品に仕上げることができた。最終的に、完成度を高めた効果は甚大なものと感じている。

株式会社角川書店

〒102-8177 東京都千代田区富士見 2-13-3

Tel:03-5213-0684

E-mail:sasaki_m@kadokawa.co.jp

URL:<http://www.kadokawa.co.jp/>

23 アフガニスタン 干ばつの大地に用水路を拓く

株式会社日本電波ニュース社

助成実績 5,000千円

活動概要

1960年、日本初のテレビ通信社として発足以来、東南アジア各国に支局を開設し、ニュース及びドキュメンタリー番組の配信を国内外のテレビ局に行っている。1980年代より、大型ドキュメンタリー番組の製作を開始した。

今回は、アフガニスタンで活動するNGO ペシャワール会現地代表・中村哲医師の活動記録映画の製作を行った。この映画では、中村医師の用水路建設活動に焦点を当て、その結果がもたらす農村の回復までを描き、古典的な命題である“戦争と平和”を省察できるものをめざした。

泥沼の状態を呈するアフガニスタンで27年間に亘って人々を援助し続ける日本人医師中村哲。中村氏は1983年からパキスタン、アフガニスタンの両国で無償医療援助を始めた。

ところが、2000年に顕在化した大干ばつによりその活動の転換を迫られる。

この映画は、中村氏の医師として治療に関わる傍ら、人々の命をつなぐ“水”を確保しようと取り組む活動を記録した。中村氏は、飲料水確保のため1000本以上の井戸を掘り、2003年には全長26キロにも及ぶ灌漑用水路の建設に着手したのである。医療だけでは救うことができない多くの命を前にして、医師である前に、人としてとにかく行動を起こそうとする中村医師。そこには、生命を見つめる彼の真摯な覚悟が見て取れる。

資金も道具も限られていた江戸時代の治水技術を取り入れ、土木工事に挑んだ結果、農地に水を取り戻すことに成功した。人智を超えた厳しい自然を前に、人は何に重きを置いてその恵みを得、糧とすべきかという現代的問いかけに、中村医師とアフガン農民が到達した一つの答えを人々へ伝える機会となった。



▲マルワリード用水路



▲中村哲医師

助成を受けて

この映画は、江戸時代の工法による用水路の建設という、一般人には理解しにくいテーマを取り扱っている。多くの人の理解と共感を得るためには、分かりやすいCGによる表現を採用することが不可欠だと考えていた。助成を受けたことで、それが実現できたことや作曲などの演出手法も可能になった。

株式会社日本電波ニュース社

〒106-0047 東京都港区南麻布 1-5-10 小池ビル 3F

Tel:03-5765-6810

E-mail:JDUO5651@nifty.com

URL:<http://www.ndn-news.co.jp>

24 よみがえりのレシピ

映画「よみがえりのレシピ」製作委員会

助成実績 2,000千円

活動概要

映画製作のために、平成22年4月17日、主に山形県内の有志により、設立した任意団体である。山形県内外の農家や消費者と連携しながら、種を守る文化が教えてくれる食と農業の未来像を、一緒に描きたいと取り組んだ活動である。

製作委員のメンバーの出資を元に、平成22年5月から撮影を開始。

一般市民や企業・団体からの寄付（市民プロデューサーとして）を募り、また山形県からの委託事業なども行いながら、映画の製作や在来作物についての啓蒙活動も進めている。

食と農業に関する分野では、様々な問題が山積している。在来作物と呼ばれる伝統的な野菜や穀物の種を守る、小規模農家の姿を記録することで、かつては当たり前であった食と農業の、豊かな価値観をもう一度生活に取り戻すことができるはずだとの強い思い。親や親戚から受け継がれてきた種を守っている人々からは、作物への限りない愛情が伝わってくる。

さらに、その作物を研究する人々、料理する人々の姿には、失われつつある地域社会の新しい姿がある。

在来作物と生産者に出会い、食と農業の豊かな関係を見出した人々が、人と人のつながり、絆のなかで、作物だけでなく多様な価値観を獲得していく姿を追った。

これからの地域の魅力を磨くために食文化を盛り上げていくことの重要性を生産者・消費者が共有することができた。

市民プロデューサーという形で寄付を募集して映画が完成したことによって、山形という地方都市でも市民の協力を得て映画製作が可能であることを証明し、今後の映像文化への期待と機運を高めることができた。



▲新たな調理法でよみがえった在来作物



▲焼き畑で復活した藤沢カブ

助成を受けて

映画製作に参加した市民も、映画の企画が助成対象事業として評価されたことで、この映画製作の意義を強く認識することになった。また、映画の製作を通して結束が深まり、地域に新たなつながりを生むことにもなった。

また、映像や音楽の編集、ナレーションなどのポストプロダクションを充実させることができ、明るい希望が見えた。

映画「よみがえりのレシピ」製作委員会

〒997-0034 山形県鶴岡市本町 2-5-15

Tel:090-6658-5524

E-mail:info@y-recipe.net

URL:http://www.y-recipe.net/

25ハーバーテイル

有限会社イトゥーン

助成実績 3,000千円

活動概要

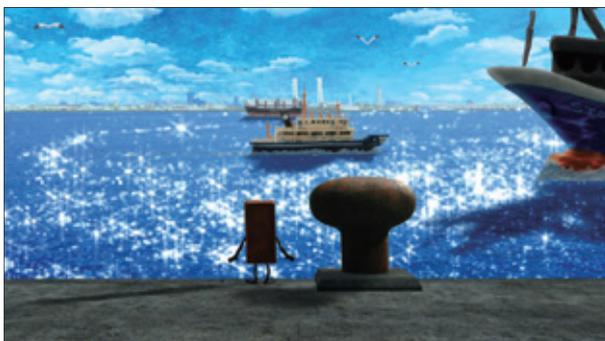
本作品は、クレイやパペットアニメーションの新しい可能性を、最新のデジタル技術とミックスしながら挑戦してきた映像作家伊藤有壱の、現時点での集大成となるべく製作したインディペンデントアニメーション作品である。

約5年の構想を基に、世界中どこにでもある「港町」を舞台にする物語を、コマ撮り映像とCGを組み合わせることにより、画面の隅々まで豊かな生命観に満ちた映像空間を構築し、商業ラインとは一線を画した作品性の純度を重視した短編アニメーション作品に仕上げた。

制作完了から、セット展示イベント「YOKOHAMA TALE」の開催、シネマ・ジャック&ベティでの1週間上映で、約400人の集客を達成したが、インディペンデントアニメーション作品としては異例の集客数である。このことは、作家性を重視した意義を認識できる一例である。

また今回、作品の真価を問うべく国内外の多くの映画祭に出品するなど、日本だけにとどまらず世界のアニメーション界に問いかけている。

その結果、チェコで最も歴史ある映画祭の一つ「ZLIN FILM FESTIVAL」において第52回のアニメーション部門最優秀賞、及び観客賞を受賞することとなった。



▲レンガの目前に開ける港



▲物語の主人公「一片の赤いレンガ」

助成を受けて

アニメーション映画は、企画から始まり、コマ撮り、CGとの合成、編集作業、音付けなど工程が多く、その工程の各段階で、テスト、やり直しと何度も繰り返し行うことで、作品のクオリティを高めていくことになる。助成により、製作者の求める高いクオリティを目指して、製作期間を最大限確保することができ、理想の作品に仕上げることができた。

また、広報活動の協力を得ることができ、メディアへの浸透が大変スムーズになった。

有限会社イトゥーン

〒231-0002 神奈川県横浜市中区海岸通 4-24 創造空間万国橋 SOKO#301

Tel:045-222-6255 E-mail:itoon@mu2.so-net.ne.jp URL:http://www.i-toon.org/

発行日 _____
平成24年10月1日

編集発行 _____
独立行政法人
日本芸術文化振興会 基金部
〒102-8656 東京都千代田区隼町4-1
☎ 03-3265-6302
URL <http://www.ntjjac.go.jp/kikin.html>

